

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和4年度第3回）議事概要  
日 時：令和4年6月24日（金）10：30～12：00  
場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室 ※Webex 使用  
出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、児玉安司理事、北川雄光理事、飯野奈津子理事、  
北川昌伸理事、小野高史監事、近藤浩明監事、島田中央病院長、大津東病院長

## I. 前回（令和4年度第2回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を北川(雄)理事と近藤監事に依頼。

## II. 審議事項

### 1. 令和3年度決算について

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・年度決算の内容について、監事からの監査報告としては特に大きな問題点はないという報告をさせていただきたい。しかし、来年度から適用となる会計基準を踏まえ「決算に関する会計プロジェクト」を理事会の下に設置していただき対応していただきたい。取り組みは1点目は決算改善のための具体的な方策。2点目はシステム化である。3点目は収益認識基準への対応について、重点的に取り組み、検討状況を報告していただきたい。これらをセンター共通の課題として執行役員、理事の皆様にご認識していただき、進めていただきたい。
- これまで改善に努めてきてはいるものの、改善に向けて、①決算改善の具体的な対策の構築について取り組むこと。②また、10年間で経営規模が2倍以上に増加する中、特に増えている研究費の獲得にかかる業務のシステム化によるリスク低減。③令和5年度から予定されている収益化の取扱いの改訂への対応。これらの三点について、理事会の下にプロジェクトチームを編成しフォローする体制を整えていきたい。

### 2. 令和3年度業務実績評価について

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・全体的に上向きな傾向であることには非常に感心している。人材育成に関する項目について、これまでB評価であったところをA評価とした点について、コロナ禍の影響は大きかったものの、eラーニングの活用等で上手く対応できたことがポジティブに働いていると主張していただきたい。また、今後、コロナの影響がなくなってもこの傾向は続いていくと思われるので、Webを活用したアクティブラーニング等、新しい工夫も今後取り入れていただきたい。
- これからの人材育成の有り様については非常に重要なポイントと考えている。実績と方向性を明確にしながら進めていきたい。

### 3. 中長期計画(案)、年度計画(案)の変更について

資料に沿って報告された。

## II. 報告事項

### 1. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・デジタル庁設置に伴い求められている PMO の設置、デジタル化に伴う電子カルテ対策への対応について精力的に進めていくこと、グローバルヘルスの視点に立ったがん医療への貢献なども視野に入れる必要がある。

### 2. 広報実績等

資料に沿って報告された。

### 3. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

### 4. 5月分医業件数等

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・中央病院でCovid-19のクラスターが発生したことが入院患者数の減少につながっているということだが、無症状の感染者の割合が大きくなっている時期における対応策はあるのか。
- 5月24日に当院看護師2名のPCR陽性が発覚し、25日に病棟のスクリーニング検査を行った結果、複数の患者さんと看護師にPCR陽性、うち約半数が症状有りであった。今回のクラスターに関して当院ICTを中心とする分析と、東京都の担当者、中央区保健所による視察と客観的評価をいただいた。結果、患者さんの症状に応じた、フルフェイスのマスク等の特別な感染対策が足りなかったのではないかという分析が出た。今後はこの分析を生かして対策を強化し、さらなるクラスターの発生がないよう、職員一同努力する。
- 無症状の感染が拡大する中、リスクの高い患者さんへの対応についてこれまで以上に注意を払う以上のことは無いと思うが、マスク、手洗いの励行といった基本的感染対策を徹底しながら、より安全な環境づくりに配慮すべきかと思う。

### 5. その他

- ・理事会終了後、6月25日柏キャンパス30周年記念式典のお知らせと、中山理事長特任補佐より異動に伴うご挨拶があった。